

第6学年 国語科 学習指導案

指導者 河崎直子 大黒仁裕 岩下奈津実 日野克洋

1, 日時 2020年 10月 25日 (金)

2, 単元名 (教材名) 「作品の主題を紹介しよう」 (海の命)

3, 単元目標

- 作品で明らかにされていない言葉の意味や登場人物の考え方について、自分なりの解釈をもち物語を読んでいる (知識及び技能)
- それぞれの学習における読み取りを再構築し、ふり返りや書評に表している (思考力、判断力、表現力等)
- これまでの学習をいかし、人物相互の関係や人物の心情などから主題を想像している (学びに向かう力、人間性等)

4, 単元について

本学級の児童は、6年生で「カレーライス」「やまなし」といった読み物教材を学習し、読み物には主題が隠されていることを学習してきた。それぞれの作品における主題を読み取ることはできたが、あくまで教師が読むべき箇所を提示した学習の上であり、児童らが自らの力で物語から主題を読み取る力をつけられたとは言えない。

「海の命」は小学校生活最後の物語教材となる。中心人物である太一が、おとう、与吉じいさら、海に生きる者の人生や考え方を通し、村一番の漁師になるまでが書かれた作品である。本文には「千匹に一匹でいいんだ」や「本当の一人前の漁師」など暗喩めいた表現があちこちに使われており、こうした不確かなことばから主題を読み取ることができる作品であると考えられる。

指導にあたり、主題を読み取る学習をいかした書評作りを提示する。主題は本文に明示されているものではなく、物語の中心となる出来事から想起されたり、印象的なフレーズに現れたりするものと考えられる。そこで、①作品の印象的な出来事やフレーズに気づく②それらを人物相互の関係やそれぞれの考え方をもとに読む③自分の考えと重ねるといった学習を進める。部分部分の読みを総合して主題としてとらえさせ、短い書評をつくることを単元のゴールに設定する。

1次ではこの作品を読んで「え?・どうして・なんで・よくわからない・深そう」と感じた箇所をあげさせる。これらを集約し、単元計画を教師が設定する。同時に上記のような主題をつかむ読み方を指導した上で「カレーライス」や「きつねの窓」の書評を提示し、学習のゴールへの意識付けを行う。

2次では、児童から吸い上げた結果を基に作成した学習計画に沿って進行する。それぞれの時間の読み取りやふり返りを一覧できるワークシートを用意し、2次の最後にはそのワークシートから「海の命」全体の主題を考えさせる。

3次では一人一人が主題を「この作品の主題を、私は～と考えました。①なぜなら②だから」の形で文章化する。この読み取りにあった挿絵を一枚選ばせ、A4の紙に挿絵、一文ののったポスター形式にする。

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

→～している

学びに向かう力、人間性等

→「進んで、今までの学びをいかして
粘り強く、見通しをもって」

その他調整を必要とする具体的な言語活動

5, 単元構想 (全8時間)

学習活動	指導上の留意点
<p>第1次 (2時間)</p> <p>○単元のゴールを知り、イメージをつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カレーライス」は思春期の悩みが表れていたな ・「やまなし」では自然の優しさや怖さを感じた ・そういうメッセージを主題と言うのか <p>○範読を聞き、主題に関わりそうな文や疑問の残る文に線を引く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで千匹に一匹でいいのだろうか ・おとうの敵だったクエを、なんでうたなかつたのか ・クエを殺さなかつたのになんで村一番の漁師なのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの物語を読み返し、主題を確認する。 ・主題という言葉は、物語から直接読み取れないメッセージとしておさえる。 ・CDによる範読で、児童が線を引く様子を確認する。 ・線を引かせた後、ノートに本文の抜き書きと、そこに線を引いた理由を書かせる。 ・児童の傾向を調査し、数の多かったものや教師が主題に迫りやすいと感じた叙述を選び、学習計画を立てる。
<p>第2次 (4時間)</p> <p>○人物相互の関係を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おとうがいたから太一は漁師を目指した ・釣りの腕は与吉じいさが鍛えてくれた ・おとうの敵討ちのためにこれまでがんばってきた <p>○「千匹に一匹でいい」を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一匹じゃ足りないと思うけどどうということかな ・瀬の主は一匹だから、討ってもいいんじゃないかな ・瀬の主に会って、与吉じいさの言っていたことがわかったのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係図を活用し、それぞれが太一に与えた影響を視覚化させる。 ・より影響を与えた人物を問い、太一の人物像や考え方に迫らせる。 ・「千匹に一匹でいい。千匹に～」を提示し、比喩表現を読み取らせる。 ・瀬の主が一匹であったことを確認し、当てはまらない理由から言葉の意味を考えさせる。
<p>○「村一番の漁師」を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん魚をとれるのがいい漁師だ ・瀬の主を討たなかつたのにどうして村一番の漁師になっているのかな ・一人前の漁師とは、いただく命を大切にできる漁師 	<ul style="list-style-type: none"> ・いい漁師のイメージを児童らに問う。その上で、クライマックス、後話を読み、瀬の主を討たずに村一番の漁師になった太一の矛盾を示す。
<p>○作品名「海の命」を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大魚はこの「海の命」 ・どんな意味で使われているかな ・命は大切なものだから、海の命を大切にするととはどんなことを指すのかな ・限りある魚の命を粗末に扱わないということかな ・自分たちが生きるために必要な分だけをいただくということかな 	<ul style="list-style-type: none"> ・文中で「海の命」と書かれた場所を探させ、前後関係から言葉の意味を考えさせる。その際、これまでの読みを参考にしてしているものを評価する。 ・命は大切、という前提から、海の「命」を大切にするととはどんな行動、考え方を児童らに問う。
<p>第3次 (2時間)</p> <p>○作品の主題を決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千匹に一匹という言葉が深かったな ・おとうの「海のめぐみ」は「海の命」の考え方に似ているな <p>○それぞれの書評を交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・□□さんの書評を見て～ ・△△さんの主題と自分を比べて～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「この作品の主題を、私は～と考えました。①なぜなら②だから」の形でまとめさせる。 ・考えた主題にあう挿絵を選び、ポスターにする。 ・それぞれの主題を自分と比べ、「なるほど、でも、それもいい」の観点で学習のふり返りを書かせる。

山場での問いをイメージした留意点を書く

本時を囲む

児童の思考や目指すゴールの姿

主語は児童

主語は教師

7, 本時の目標 (4時間/全8時間)

- ・「村一番の漁師」が意味するものを、瀬の主を討たなかった理由に関連付けて主題を読むことがで (知識及び技能)

学習活動	指導上の留意点
<p>1, 学習する本文を音読し、課題をつかむ</p> <p>2, 一般的ないい漁師のイメージを広げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚をたくさんとることができる ・魚の特性をたくさん知っている ・風や潮の流れなどを感知できる ・いい道具や船を持っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おまえはもう村一番の漁師だよ」を短冊にして掲示し、音読させる。 <p>めあて…どんな漁師が村一番の漁師だろう・・・①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いい漁師はどんな漁師か」問う・・・② ・本文から離れ、優秀、腕のいいなどの言葉を補いながらイメージを膨らませる ・与吉じいさが太一を村一番と認めたときの、太一の能力と比べさせる
<p>3, 作品における村一番の漁師イメージを読み取る</p> <p>○短冊の叙述を読み、矛盾に気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きいとはいえ討てない魚がいれば村一番とは言えないんじゃないか ・太一に討てないなら他の誰も討てない。結果太一が村一番と言えるのでは <p>○小グループで意見の交換をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クエを討つのは生きるための殺しではないので、命を大切にしている ・無理をしたらおとうのように死んでしまうかもしれない。母を悲しませてはいけない ・千匹に一匹でいいという教えを思い出した <p>○ギャラリートークで意見を広げる</p> <p>○全体で交流する</p> <p>4, 学習のふり返りを書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「この大魚を討たなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと太一は泣きそうになりながら思う」「太一は村一番の漁師であり続けた」の短冊を掲示し、 <p>長くても20分以内に③の活動に入る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クエを討てなかったのに村一番であり続けた矛盾を提示し、『クエを討たずに村一番であり続けたのはなぜか』問う・・・③ <p><合理的配慮>・・・④</p> <p>意見を書きにくい児童に対しては、直接やりとりをして考えを述べさせる。出てきた意見やキーワードをノートに書かせる。</p> <p>コミュニケーションの手立て・・・⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換を受けた内容をノートに追記し、「自分と違う意見を書いている子3人を見つける」と指示し、ギャラリートークを行う。 ・似ている意見については違いを強調して板書する。 ・同じようなことを書いた児童を挙手させ、それぞれの書きぶりを全体で比較させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「村一番の漁師は、瀬の主を討たない。なぜなら」の書き出しでふり返りを書かせる。その際、書ける子は3文目を書くよう指示し、さらに考えたことや他の叙述との接点を書かせる。 <p>評A：「村一番の漁師」の叙述が表しているものを、他の叙述にも重ねて書いている</p> <p>B：「村一番の漁師」が瀬の主を討たない理由を考えて書いている・・・⑥</p>

5分を残せるように配分する

①～⑥については事後研の柱となるため丁寧に考える他教科についても同様